

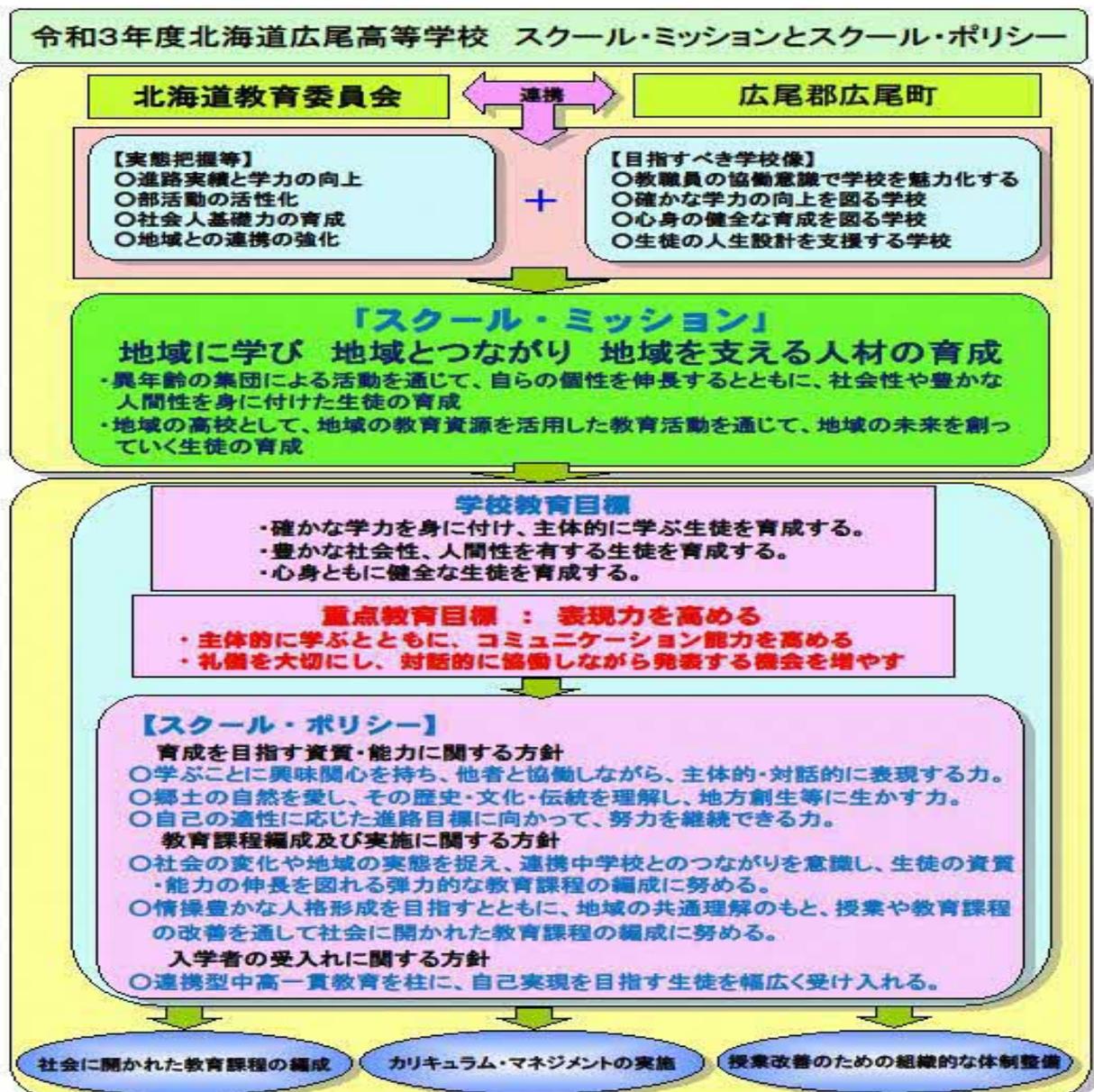
学校運営協議会との連携を重視した重点教育目標の達成に向けた取組

北海道広尾高等学校
学 級 数 5
(校長 小島 政裕)

1 本校の現状

本校は、平成18年度より「広尾町連携型中高一貫教育」をスタートさせ、「郷土広尾を愛し、心豊かに学び、新世紀を逞しく、主体的に生きる人を育てる～地域の教育力を結集し、広尾の子どもは広尾で育てる～」を理念に掲げ、中高6年間のスパンで広尾町教育委員会、広尾中学校及び広尾高校が三位一体となった教育活動を展開している。また、令和2年度より、本校においても「学校運営協議会（CS）」（以下、「CS」）を設置したことにより、広尾町内の小中高すべてにCSが導入された。過去3年間の広尾中学校から広尾高校への進学率も平成31年度は64.9%、令和2年度は66.7%、令和3年度は68%と上昇している。CSと連携した教育活動や、大学進学から就職まで幅広い進路希望に対応したきめ細やかな指導などが地域から評価されている。

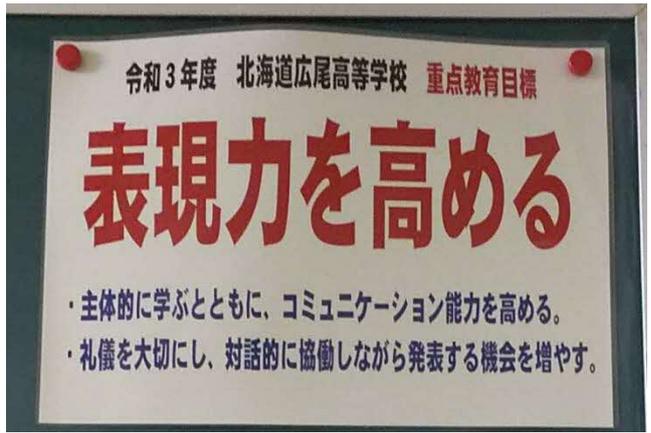
こうしたことから、本年度再定義された「スクール・ミッション」では、本校の使命は「地域に学び 地域とつながり 地域を支える人材の育成」であり、地域との連携を重視した学校づくりを進めている。



2 実践の内容

(1) 令和3年度の重点教育目標「表現力を高める」について

令和2年度のCSでの熟議では、CS委員から「本校生徒の足りない力は『主体性』である。」という意見が多く、このことを踏まえ、令和3年度は「主体性」を高めるための具体的方策として、本校の重点教育目標を「表現力を高める」とした。全校生徒へ重点教育目標の周知を図るため、教室に掲示したり、全校集会の講話において呼びかけたりするなどして、学校全体のベクトルが一つの方向に向かうよう取り組んでいる。また、全分掌・全教科で重点教育目標を達成するため、次のような具体的な取組を実施している。



ア 教務部の取組

- ・表現力の育成をテーマとした公開授業の実施や朝学習における表現力の育成に繋がる課題の提示
- ・生徒及び教員の授業評価アンケートの重要項目に「表現力」に関する質問項目の追加

イ 生徒指導部の取組

- ・外部講師を招いて実施する学校行事等において、多くの生徒に代表挨拶をさせる機会の設定

ウ 進路指導部の取組

- ・進路説明会やマナー講習などを活用し、外部講師と積極的にコミュニケーションする機会の設定

エ 教科の取組

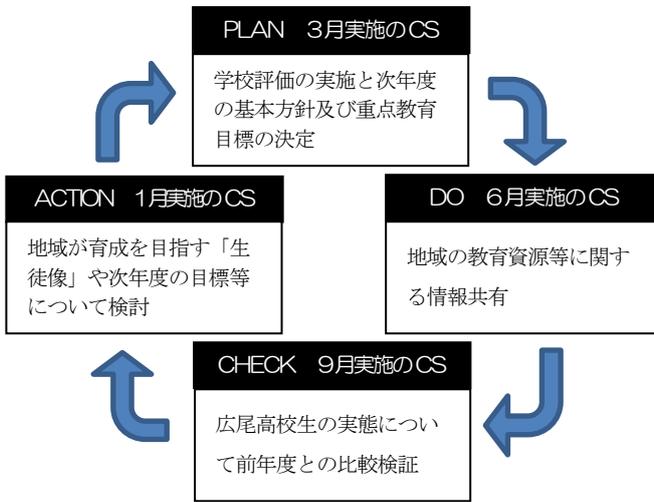
- ・振り返りシートやレポート等のアウトプットを重視した学習活動
- ・グループの意見をまとめる活動や生徒自身に学んだ内容を他者に説明させる学習活動

「表現力を高める」		中間評価会議資料（説明不要）	
各分掌・教科の最後の枠を空欄にしています。年度当初計画していないが取り組んだ内容があれば入力し、数値評価・中間報告も同様に打ち込んでください。枠が足りない場合は挿入してください。			
Q 数値評価：取り組んだ（4・3・2） 取り組んでいない（1）			
分掌教科	年度当初計画	数値	中間報告
教務部	①各教科の特性を活かして、表現力を高める指導を工夫してもらうよう促す。	2	年間方針会議や第1回授業評価アンケートの結果からも、表現力の向上に向けて指導の工夫をお願いしたが、具体策などもう少しイメージしやすいよう提示することが必要だった。
	②表現力を高める授業実践の情報を収集し、校内研修などで全体に周知、共有する。	1	できていない。情報を収集して提供していく。
	③表現力にテーマを絞った授業公開（見学）週間などを設ける。	3	1週間の期間を設けて実施したが、参観できていない人もいるので、後期のオープンクラスウィークでは100%参観してもらえるように工夫する。
	④朝学習に表現力の育成に繋がる課題を取り入れる（3分スピーチなど）。	3	5分という時間から、第1回朝学習ウィークは各自で取り組む内容となったが、どのクラスも真剣に取り組んでもらえた。第2回実施に向けて内容を検討していきたい。
	⑤授業評価アンケートに重要項目として「表現力」を取り入れる。	3	第1回授業評価アンケートから生徒自身、教員それぞれ表現力に関する質問項目を加えた。いずれも数値は高くないため、後期に向けて改善が必要とわかった。
	⑥各教科での評価について「表現力」に関する評価の割合を高めよう。	1	評価基準、評価材料について、各教科の裁量に任せているので、把握しきれていない。アンケート等で把握したい。
	国語	①効果的にグループワークを取り入れ、自分の意見を発表する機会を増やす。	3
②教員が「答えを教える」のではなく、生徒たちが協力しながら答えを見つける「方法を指導する」。		3	講義形式の授業のなかにも、生徒たちが課題を解決するための方法を模索し、課題解決に取り組む場面を設けることができた。
③グループワークを通じて、他者の意見を尊重する態度を養成する。		4	意見を発表しやすい授業の雰囲気を作るため、生徒たちに声掛けを適宜行い、お互いに表現しあうことを意識させた。
家庭	④校外のコンテスト、コンクール、実習などを活用し、プレゼンテーション力を高める。	2	3年生については、プレゼンの機会を多く設けられている。1・2年生については、全体での発表の場面等はまだ多く設定できていない。
	⑤個人作業で取り組んだ制作物やレポートなどについても、発表し合ったり、掲示したりして、相互評価をし双方の自信にも繋げる。	2	発表では歌や手遊び、絵本の読み聞かせなど、個人が全体で発表・相互評価をする場面を多く設定でき、生徒達の成長も見られている。他科目でも後期にかけて充実させていきたい。

※中間反省会議資料（一部抜粋）

(2) CS での PDCA サイクルを取り入れた協議について

年間4回実施されるCSにおいて、協議のマナー化を防ぎ、学校の重点教育目標などとの関連を図るため、次のPDCAサイクルに基づき協議を深める工夫をしている。



次 第	
司会：教頭	
1	校長挨拶
2	学校運営協議会委員委任（机上配布）
3	委員紹介 （役職など変更が有りましたら後ほどお知らせ下さい）
4	学校運営協議会の流れについて
5	本校の教育活動の状況について（別冊資料）
	ア 学習指導について
	イ 生徒指導について
	ウ 進路指導について
	エ その他（R2学校関係者評価書、前回会議録、重点教育 目標への取組【再】）
6	熟議（今年度の重点教育目標を受けて、地域環境や教育資 源・家庭環境の強み・弱みについて） …何か取組めたり、地域・家庭に促せることがあれば
7	今年度の学校運営協議会の予定について
8	その他（連絡等）

※CSにおける式次第

ア CS の実施状況について

(ア) 令和3年1月の実施状況

目標：目指す生徒像について熟議。次年度の重点教育目標として最も意識することを第1回及び第2回の議論を踏まえ、本校が目指す生徒像を話し合う。

令和2年度第3回学校運営協議会（1月19日）から

教育目標
○心身ともに健全な生徒を育成する。
・挨拶が大切。学校ではするが、町ではしないことも多い。何のためにしているのかを考えて主体的に学びに向かう力が必要
・礼儀・コミュニケーションが大切

1 育成を目指す資質・能力

(1) 多様な他者と協働し、主体的・対話的に目標に向かって挑戦する力。
・社会に出てから必要な力である。特に資料を精査してパワーポイントなどを用いて表現し、伝える力を伸ばして欲しい。
・コミュニケーション力。会社を辞める理由は人間関係が多い。いろいろな性格の人・年代の人と関われる、協働できる生徒になって欲しい

(2) 郷土の自然を愛するとともに、その歴史・文化・伝統を理解する力。
・なぜ「郷土を愛する…」ではなく、自然が入るのか？

(3) 地域や社会における産業の役割を深く理解し、地方創生等に活かす力。

(4) 自己実現に向け、主体的に学ぶことに興味・関心を持ち続ける力。
・自分の興味や得意なことに就くこともありえる。その中で、興味・関心を持って働かなければ苦痛となる
・置かれた場所で咲きなさい。自分の興味・関心のある職業に就けるのは1割ほどしかない
・物事に興味・関心を持っていると楽しめる。自分事に考えると主体性が出てくる
・社会で起きたことにもっと関心・興味を持って、感動する心を持って欲しい
・主体的に学んで、研究、探究する姿勢
・自分の子供もそうだったが、課題以外のことはほしくない

(5) 自己の適性に応じた進路目標に向かって、努力を継続できる力。
・自己を内省し、自己を知る。物事に自分なりの価値観
・適性に応じた進路目標を提示するなどのアドバイスをお願いします
・適性・個性に応じて、声をかけて挑戦させる・伸ばす・視野を広げる

(6) 素直で礼儀正しく、自律性・社会性・公共心を重んじる力。

その他
・キーワードとして、主体性・向上心・集中力
・これから、Zoomなどの会議が増えていくことが予想される。あいさつや、第一印象、自分の見せ方、自分の意見を適切に伝えることができる表現力
・内容を整理して伝える力が弱い
・良いことも課題も含めて正しく広尾のことを知る。十勝他町村・北海道・日本の他者と比較して判断 2 読み・書き・言葉 読解力が足りない 3 自省する力、常に自分事と捉えて振り返ることができるように
・自分に自信を持つ。主張したいのに、人目が気になったり、引け目を感じたりしてしまう。

(イ) 令和3年3月の実施状況

目標：学校評価の実施と次年度の基本方針・重点教育目標の決定、各分掌・教科の取組について説明する。

令和2年度第4回学校運営協議会（3月17日）から

令和3年度 重点教育目標
表現力を高める
・主体的に学ぶとともに、コミュニケーション能力を高める
・礼儀を大切に、対話的に協働しながら発表する機会を増やす を受けて

● 学校運営協議会の委員の方からの期待や確認など

ア 教務部に記載されている「表現力にテーマを絞った授業公開週間」はともい取り組みと思われる

イ 表現力は「言語による表現力」のみを指すのか？例えば芸術はそのものが表現であり、数学は記号や図形・式も表現であり、体育のダンスは動作が表現と言える。ことばの表現力のみならず、その他の表現力についても理解をさせてから取り組むとよい。

ウ 話し上手は「対話的」に該当するのか？
→ 対話と会話とは異なる。対話は言葉を通して互いに理解を深め、考えを深く育てたりすることが「対話的」という押さえである。単にしゃべり上手を「対話的」と指すわけではない。「対話」は相互理解が不可欠であり、相手を理解し、共感して繋がることとなり、自分の考えを述べるよりも、相手の見ているものや感じていることを受け取ることが重要になる。

エ 生徒が教育活動の中で「どのようになったら表現力が上がったと言えるのか？」各教科の中でゴールをイメージして教育活動を展開してもらいたい。それには育みたい力を各部署ではっきりさせてから進めることが肝要であろう。

オ 生徒にも広尾高校の今年度の重点教育目標は「表現力を高める」であり、教科のゴールをイメージさせてからスタートさせてください。

カ 各分掌・教科で年度末に自己評価したものを教えてください

(ウ) 令和3年6月の実施状況

目標：今年度の重点教育目標を受け、地域の環境や教育資源・家庭環境の強みと弱みについて熟議。地域や家庭でできることや取組が可能なことをまとめる。

令和3年度 第1回学校運営協議会（6月10日から）

1 新メンバー
山畑課長（副会長）、高橋生涯学習コーディネーター、亀田PTA会長、伊澤校長、関尾道路部長

2 都合により欠席
山畑課長（副会長）、高橋生涯学習コーディネーター、亀田PTA会長、大庭さん、佐藤さん

3 熟議でのグループ分け
Aグループ（高橋社長、伊澤校長、相馬先生）
Bグループ（熊谷さん、高松さん、富田先生、関尾先生）
Cグループ（渡辺事務長、中山事務長、八太先生）

4 熟議から（重点教育目標「表現力を高める」）
Aグループ

強み 発信する素材に恵まれている…町のイベントに参加する生徒も多い。
自然環境（海、山、漁業、農業、林業など）
歴史がある、観光スポット（サンタランド）

弱み 町外の人との関わりが少ない。しかし、ICTの発達により弱みを強みに変えることができるのではないかと？

Bグループ
「あいさつ」「返事」「笑顔」この3つを備えて、周りからかわいがられれば充実した生活・人生につながる

Cグループ

強み 挨拶ができる生徒が多いのは家庭教育がしっかりされているから

弱み 人間関係の構築。小さい頃から友人同士の関係性が変わらないので、うまの合わない同級生とどのように関係性を持っていくか？などの経験が少ない

全体として 地域のつながりが強いところを活かし、育てたい生徒像を共有し、小・中・高と段階的に育てると良いのではないかと

(エ) 令和3年9月の実施状況

目標：本校生徒の実態について熟議。CS委員から見た本校生徒の現状などを参考に、生徒の実態を昨年度と比較しながら把握する。

令和3年度 第2回学校運営協議会（9月30日実施）会議録

参加者16名（運営委員：高橋正、山畑、熊谷、佐藤、大庭、高松、渡辺、高橋敏、伊澤 宗敬 幹事 校長 内：校長、教頭、事務長、宮田、相馬、八太、関尾）（記録：船越）

熟議「生徒の実態について」

1 広尾高校生のよいところ

(1) やさしい
・下の学年の面倒見ができる
・親を大切にしている
・気を遣える

(2) 素直
・素直で一生懸命
・先生を信頼している
・言われたことを頑張る
・行事に一生懸命取り組む

(3) 真面目
・授業態度が良い
・堅実で素直で真面目
・誠実である

(4) 仲が良い(親子、友達同士)
・家庭の力が強い（家庭と子どもがよく会話をしているから）
・仲間意識が強い

その他
・明るい
・素朴
・礼儀正しい、マナー、挨拶
・自分から挨拶できる
・広尾中以外の出身生徒も大変よく頑張っている

・はつらつとしている
・のびのびしている
・堅実
・個性を大切にしている

2 広尾高校生の伸ばしたいところ

(1) 対応力(想定外のこと、様々なこと)
・自分で考えて動く
・決断力
・判断力
・自分で解決できる力

(2) チャレンジ精神
・競争力
・挑戦力
・向上心を持つ
・冒険しない、チャレンジしない
・自信を持ってチャレンジできる生徒を！
・外の世界を知ろうとしない
・積極性

その他
・コミュニケーション力
・食欲
・吸収力
・自己肯定感
・てきぱち感（のんびりしているので）

・表現力
・学力向上
・粘り強く取り組む力
・気づき

イ 今年度の重点教育目標を踏まえたCSでの協議の内容について
CSでは、CSの各委員から重点教育目標を踏まえて、次のような意見が出されており、各教科や特別活動等においては、CS委員の意見を取り入れながら、教育活動の改善に取り組んでいる。

- ・表現力とは「言語による表現力」のみを指すのではない。数学における記号や図形・式も表現であり、体育のダンスは動作そのものが表現と言えるのではないかと。「言語による表現力」だけでなく、その他の表現力についても、生徒に理解させてから取り組むとよいのではないかと。
- ・「対話」と「会話」は異なるのではないかと。言葉を通して互いに理解を深め、考えを深く育てることが「対話」であり、「対話」を通じて相互理解を深め、共感して繋がるのが重要であると。



3 実践の成果と課題（成果○ 課題●）

- 今年度の重点教育目標である「表現力を高める」について、生徒が学校行事などの様々な場面で自ら表現しようとする意欲が見られるようになった。
- 学校や地域で重点教育目標を意識することで、生徒・教員・家庭・保護者が同じ方向を向き、教育活動を行うことができた。
- 本校生徒と日常的に関わっていないCS委員もいるため、生徒の変容を実感しにくい面がある。
- CS委員の任期は2年であり、委員交代を含め、適宜新たな視点を得られるよう工夫する必要がある。